本日、私からは大きく 4 点、「防災対策について」「コミュニティ・スクールについて」「若者支援・活躍応援事業について」「地域課題について」質問します。

まず、防災対策のうち、在宅避難を可能にする取組みについて質問します。北区ニュース 8 月 20 日特集号では、在宅避難について大きく取り上げています。特に、大地震が発生した際に自宅の安全が確保でき、周囲に火災が発生していないのであれば、在宅避難することを勧めています。これは、在宅避難では住み慣れた環境で生活することができるため、特に乳幼児や高齢者、ペットがいる家庭では、ストレスの軽減やプライバシーの確保など、それぞれの生活環境に対応させやすいこと。また、在宅避難できる住民が増えれば、避難所の過密を緩和することができ、本当に避難所を必要とする人を支えることにつながるからです。

在宅避難を可能にするには、大前提として自宅が倒壊や延焼の恐れがないこと、さらには住宅の中で負傷しない環境が整備されていることが必須となります。具体的には、大型家具の転倒防止やガラスの飛散防止、電気火災の発生防止の対策です。そのため、北区では対象世帯に家具転倒防止器具の取付け支援や、感震ブレーカーの配布・設置支援を行っています。

在宅避難に向けての備蓄としては、一週間分の水と食料を用意するように言われていますが、それ以上に必要なものとしてトイレがあります。それは、被災後に空腹は数時間我慢することができても、排せつの生理現象を我慢することは困難だからです。そのため、今年度、北区では在宅避難の啓発も兼ね、区民全員に 3 日分の簡易トイレの配布を予定しています。

ただ、乳幼児や高齢者がいる家庭では、更にそれぞれの生活環境に合わせた備蓄品が必要となってきます。そこで、子育て世帯や高齢者世帯を対象として、必要な備蓄品をそれ

ぞれの家庭で選ぶことができる「防災カタログギフト」の配布を区で行うようにしてはどうでしょうか。カタログギフトの中に防災情報へのリンクの QR コードを掲載することにより、防災意識を向上させる啓発にもなり、カタログを見ることによって、自分の家庭に必要な備蓄品を考えるきっかけにもなるかと思います。

次に、記録的短時間大雨に対する備えについて質問します。8 月 22 日、北区では 1 時間に 100 ミリを超える豪雨に見舞われました。その 9 日前の 8 月 13 日に千葉県内で相次いで線状降水帯が発生した状況とは異なり、雨雲が移動したために大きな被害には至りませんでしたが、日本の至る所で「数十年に一度」という豪雨が毎年のように現れ、北区でも千葉県豪雨のような被害が出ない保証はありません。

排水能力を超える短時間の豪雨では、雨が降り始めてから短時間で道路が冠水し始める、いわゆる都市型水害となるため、荒川氾濫や台風に対するタイムラインのように、危険が迫る前の避難行動は難しく、推奨されるのは「浸水しない地域への避難または自宅などの上階に避難」となっていますが、浸水しない地域への避難については、アンダーパスは当然ながら、冠水しやすい道路を避けることにも注意しなければいけません。都市型水害への備えとしては、ハード面では短時間の豪雨にも対応できるよう、排水管の更新を行っていますが、年々、想定を超える降雨に伴う災害が増えているため、ハード面・ソフト面ともに、更に少しずつ改善を積み重ねていかなければいけないと思います。

短時間に道路が冠水するような状況の場合、不用意に動かないことが命を守るために一番大切なことですが、たまたま屋外にいて、止むを得ず安全な場所へ移動しなければならない場合もあります。その際にも、進もうとする方向や方法が安全なのかどうか、歩行者も運転者も、命を守るための正しい判断が求められます。

水は、人が感じられないような僅かな勾配でも低い方向に流れていくため、一見平たんに見える道路でも、高台や低地に関係なく冠水しやすい場所があり、北区洪水ハザードマ

ップにおいても、1 時間最大雨量 153 ミリを想定しての浸水区域が示されていますが、日ごろ道を通る時に意識することはありません。

千葉県豪雨の時には、冠水した道路にもかかわらず走行した結果、エンジンが止まってしまった車が多数生じ、救助作業や復旧作業の障害となりました。それは、「これくらいの冠水なら急げば大丈夫」「前の車がまだ走っているから大丈夫」といった、いわゆる「正常性バイアス」が働いた結果と思われます。ただ、正常性バイアスそのものは、必ずしも悪いものではありません。正常性バイアスが働くことにより、想定外の事態に対するパニックや恐怖心を抑え、メンタルの不調を防ぐ働きにつながります。

ただ、災害時には、その効果が逆に逃げ遅れや初期対応の遅れにつながる可能性が大きくなります。そこで、ナッジ理論を応用することにより、正常性バイアスを打ち消し、反射的に危険を回避する行動を促す取組みが有効だと思います。例えば、ハザードマップで浸水が 50 センチ以上に想定されている道路のガードレール等には、一般的に車が走行不能になる危険性が高まる浸水 30 センチよりさらに 10 センチ低い位置に赤色のラインを引くことにより、ドライバーや歩行者が本能的に危険を認識しやすくできる取組みを行ってはどうでしょうか。

防災対策の最後に、マンションの備えについて質問します。千葉県豪雨では、地下に電源設備を持つ大規模マンションにおいて、浸水によって電源が喪失したため、エレベーターの停止や断水が発生し、復旧までに 1 か月以上を要するとの報道もありました。東京都が行っている「東京とどまるマンション」に登録されているマンションに対しては、非常用電源設備の設置や、既に設置されている非常用電源設備への浸水対策に対する補助制度があります。今年の第 1 回定例会で質問した際に、北区で「東京とどまるマンション」に登録されているのは 32 棟と聞きましたが、その後、登録数に変化はあるでしょうか。建築費高騰の折、特に大規模修繕が予定されているマンションにおいては、災害対策にまで手

が回らないところも多いかと思います。集合住宅における在宅避難を進めやすくする上でも、この「東京とどまるマンション」への登録をさらに進めるべきと思いますが、制度の周知をより一層進める取組みについて、区としての考えを教えてください。

次に、コミュニティ・スクールについて質問します。文部科学省では、コミュニティ・スクールは、学校や子ども、地域が抱える様々な課題に対して、学校だけに任せるのではなく、学校と地域が目標や課題を共有・協議し、地域全体で解決を図っていく仕組みとして、コミュニティ・スクール設置の必要性を訴えており、このコミュニティ・スクールの理念は、学校や地域にとってはもちろんのこと、保護者や子どもたちにとっても大変に意義のある取組みだと考えます。

福田教育長は、就任以前から文部科学省が委嘱するコミュニティ・スクール推進員、通称CSマイスターとして、全国の自治体においてコミュニティ・スクールの導入を推進する体制の構築や、取組みの充実化といった支援に当たられ、地域とともにある学校づくりを推進されてきたと伺っております。

北区では、今年度から新たに滝野川第二小学校、岩淵小学校の 2 校にコミュニティ・スクールが導入され、計 8 校となり、着実に導入校が増えていると感じますが、国においては、コミュニティ・スクールと地域との一体的な推進を強力に進める方針が示されており、各自治体に対しては導入の拡大を求める動きも見られ、事実、23 区内においても急速に導入が進んでいる自治体もあります。

ただ、自治体によってコミュニティ・スクールの運営形態や地域との関わり方は様々であり、単にコミュニティ・スクール導入校の数を増やすことを目的とするのではなく、北区においては、コミュニティ・スクールの導入を進めていく上で、地域の特性や学校の実情を踏まえ、地域と学校が一体となって子どもたちを育む仕組みとして実際に機能させて

いくことが何よりも重要だと考えます。

しかしながら、国がコミュニティ・スクールの導入を強力に推進する動向を踏まえれば、北区としても、今後のコミュニティ・スクール導入についての方針を明確にしておく必要があるのではないでしょうか。

そこで質問します。北区では、これまでのコミュニティ・スクール導入校において、どのような成果や効果が現れていると認識しているでしょうか。また、福田教育長がこれまで全国のコミュニティ・スクール推進に携わる中で培われた知見を踏まえ、北区ならではの特色や地域資源を生かした「北区版コミュニティ・スクール」をどのように構築していこうと考えられているのかを教えてください。

また、今後コミュニティ・スクールをさらに拡充していくに当たり、教育委員会としてどのようなビジョンを持ち、どのように推進していく考えなのか教えてください。

次に、若者支援・活躍応援事業について質問します。私の子どもの同級生やその先輩たちからは、「行政は自分たちには何もしてくれない」といった声を聞くことがしばしばあります。確かに、社会的・経済的に弱者ではないが、強者でもない。特に、一人暮らしをしている若者にとっては、高い家賃や奨学金の返済が課せられる中で、言葉にできない息苦しさを感じながら、必死に毎日を生きている。そんな気配を感じるため、私は北区が若者支援・活躍応援事業を始めることに大いに期待し、楽しみにしています。

8 月 28 日に開催された第 1 回北区若者 meeting の模様がプレスリリースで発表されています。そこでの内容は、18 歳から 37 歳の 18 名が参加し「北区とつながる！若者が考えるもっとイイ方法」「みんなで考える、若者活躍応援・支援宣言」「北区の自慢はなんですか？」の 3 テーマについてグループに分かれ、穏やかな雰囲気の中でも活発な意見交換が行われ、今後も若者ならではの自由な発想や主体的なアイデアが期待されるとのことでし

たが、今回の北区若者 meeting への参加者の募集にあたっては、北区ニュースや区のホームページ以外に、どのような方法で行われたのでしょうか。その媒体や内容について教えてください。

「最近の若い者は」といった言葉が数千年前の遺跡に記されていたように、若者の感性は常に変化し続けています。若者の声を聞き、その声を区の政策に反映させていく上で重要なことは、参加へのハードルを下げて多様な若者の声を集めていくことではないかと考えます。仕事や勉強等、様々な事情によって、平日の夜では参加が難しい若者もいるかと思います。多くの若者の声を集めるためにも、平日以外での開催や、オンラインでのミーティングの開催も検討してはどうでしょうか。

この事業の継続のために「北区若者ミライ応援基金」の創設も予定されています。区内に住む若者を応援したいと思っている区民も多数いると思いますが、「寄附までは……」と躊躇う方もいるかと思います。そこで、自動販売機設置者の協力により、売上げの一部が寄附となるチャリティー自販機を区有施設等に設置し、購入した飲料代の一部が基金に寄附されるような取組みを行ってはどうでしょうか。自販機に「あなたの 1 本が北区の若者を応援！」のような POP をデコレーションすることにより、この事業に対する区民の関心も高まるのではないでしょうか。

最後に、地域の課題について質問します。初めに、石神井川の臭気対策について伺います。石神井川では、川底の窪んだ部分に有機物を含んだ汚泥が沈殿し、隅田川の塩分を含んだ水が遡上して汚泥に蓋をするような状態となって有機物の腐敗が進行。そこで発生したガスが原因となり、腐敗した汚泥を浮かび上がらせ、スカムを形成して悪臭が発生する、とも考えられています。

このスカムによって石神井川の表面から発生する臭気を防ぐ対策として、しゅんせつや、

水流を発生させスカムを流す等、様々な方法が試されていますが、これまでに行った対策の効果について、区としてはどのように考えているのか教えてください。

最近では、バイオ技術と化学技術のハイブリッドにより、極小の多孔質物質に吸着させた上で、バクテリアの力によって汚泥を浄化させていくものもあると聞き、様々な場所で実証実験が行われているようです。このような技術が石神井川においても効果があるのか、実証実験を行ってみてはどうかと思いますが、区の考えを教えてください。

次に、交通ルールの啓発について 2 点質問します。今年 4 月から改正された道路交通法により、自転車について交通反則通告制度、いわゆる青切符が導入されました。施行前には「自転車で歩道を走行しただけで取り締まられるのか」といった不安の声が高まりましたが、自転車は原則車道通行である一方、車道を走行する際に障害がある場合等には歩道を走行してもよい。青切符が切られるのは、信号無視や、ながら運転など、事故につながる危険性の高い違反を犯している時や、警察官の警告に従わずに違反を繰り返す場合などで、歩道を走行するだけでは検挙されないことが周知されました。その内容が拡大解釈されたのか、歩道を走行する自転車の数は減らずに、逆に以前よりも堂々と歩道を走行しているようにも感じます。

ただ、注意・取り締まりを行う側も人員は限られているため、本来の目的である自転車が関わる交通事故を減らし、歩行者が安心して歩けるためには、自転車が車道を走行しやすくなるように自転車レーンの整備といったハード面の取組みに加え、利用者の運転マナー向上というソフト面の取組みも必須と考えます。

ハード面の整備には時間とコストが必要となりますが、ソフト面の対策は短時間で比較的安価に実施できると思いますので、まずは秋の交通安全運動期間に合わせ、改めて自転車の運転ルールに関する啓発を行ってはどうでしょうか。

また、車の速度が 30 キロを超えた場合に車にはねられた人の致死率が急激に高まること

が理由で、この 9 月 1 日から、幅員 5.5 メートル未満で中央線のない生活道路において速度標識がない場合は、制限速度が 30 キロに変更されました。ただ、幹線道路の抜け道となっている生活道路では、既に制限速度が 30 キロとなっている場合もありますが、そもそも抜け道として通行する車の多くは制限速度を守っていないため、今回の制度変更が即、車の速度抑制につながるかは疑問が生じます。

そこで、まずは幅員の狭い生活道路について、制限速度が 30 キロになったことを、こちらもまずは秋の交通安全運動期間に合わせて周知した上で、将来的には目の錯覚を利用して車の速度を低下させるような路面塗装を積極的に施すようにしてはどうでしょうか。区としての考えを教えてください。

私からの質問は以上です。ご清聴ありがとうございました。